

—人と人の心をつなぐ—

# 年賀状の歴史と話題



平成7年11月

郵政研究所附属資料館  
(逓信総合博物館)

# はじめに

日本の年賀状の歴史は、明治に入って新式郵便制度の実施後、郵便葉書の普及に伴って一級化したとの見方が有力です。事実、一般市民が手紙を簡便に授受できる様になった時期は明治維新後で、文明開化により初めて実現しました。

しかしながら、大化2年(646)には既に宮廷で年賀の儀式が始まっています。平安時代に藤原明衡が著わした「雲州消息」には、年賀の手紙の例文が幾つも取り上げられています。群雄割拠の戦国時代に武将が記した年頭の挨拶文も残っています。戦国時代こそ儀礼を重んじ、意思の疎通を大切にする必要があったのかもしれませんが、また、太平を謳歌した江戸時代には公私の飛脚制度が発達し、年賀の詞を記した書状も多く現存しています。

このように、年賀の挨拶は我が国の長い歴史の中で、社会に根を下し、年申行事の一つとして今日まで伝わってきました。決して虚礼ではありません。

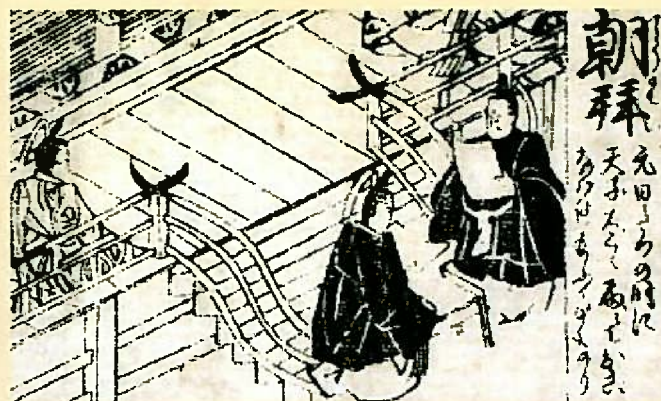
今年も年賀状の時節となりました。この冊子は年賀の歴史の一端をビジュアルに編集したのですが、その歴史を回顧し、社会的、文化的意義を再認識する手がかりとなれば幸いです。

郵政研究所附属資料館長 高橋 義光

## 郵便の創業以前

### 【年表】

欽明15(554)	百濟より唐博士来朝 唐伝来
推古12(604)	正月初めて暦日を用いる
舒明2(630)	遣唐使始まる 中国文化の摂取 唐の官制導入
大化2(646)	朝賀の式が行われる
平安後期(1066以前)	藤原明衡著「雲州消息」成立
室町初期(1420頃)	「庭訓往来」成立
室町時代(1392-1573)	末期頃から年玉盛んとなる
江戸時代(1603-1867)	参賀登城



●朝拝(朝賀)の図 元旦に、天皇が諸臣の賀を受ける儀式  
本来は中国の儀式で、日本での起源は明確ではないが、大化2年には行われている

上啓案内事  
右改年之後、富貴萬福、幸甚々々。  
仰賜春已報、可乘者是時進、壽酒之會、  
遊覽之興、聊欲付驢尾、殊有允容、  
所望可見、每事期面拜、謹言。  
正月八日 右少辨藤原  
右馬頭 駿

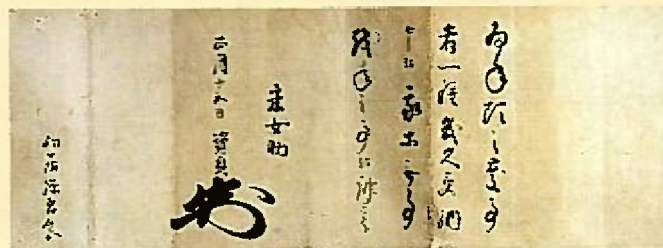
●雲州消息(明衡往来) 手紙文を集めた本(往来物)で、これはその中にある年賀状の文例の一つである(11世紀)





●庭訓往来 寺子屋の教材として広く利用された書状文例集。12か月毎月の往復書状という形式で構成されている。図は冒頭にある年賀状の文例（当町初明）

為年頭之慶事  
看一様歳久受納  
申候哉等無事  
越年之申候 謹言  
采女助  
正月十五日  
資貞  
白井源吉殿奉

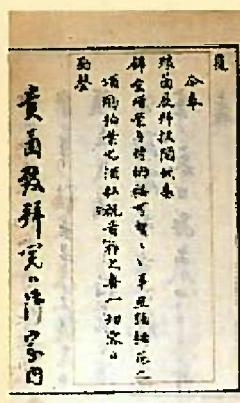


●江戸時代の年賀状 ①

春陽之御慶不可有  
尽期候 弥御無事可為  
御越年珍重存候 右  
為御祝詞如此御座候  
猶期水日之時候 恐惶  
謹言  
本多中務大輔  
正月三日  
忠貞  
依田豊前守様  
人々御中



●江戸時代の年賀状 ②



●和漢対照書札 日本・中国間の手紙の練習用として、文化文政の頃に編んだもの。図は初編冒頭にある新年の賀詞（江戸時代 文化文政期）



【年賀の話題】

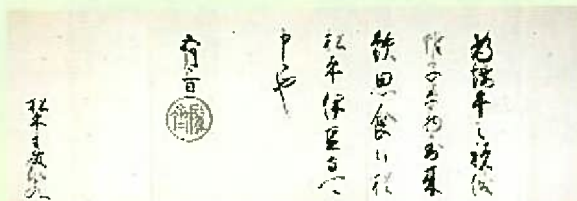
## 四季折々の挨拶状

徳川家の将軍3人の黒印状ですが、端午（五月五日のあやめの節句）、重陽（九月九日の菊の節句）、歳暮など、四季折々に祝詞を交わし贈答を行って、円滑な人間関係の維持に配慮したことが分かります。一般市民はどうだったのでしょうか。家庭教育や寺

子屋で使用するために作られた近世の往来物（初歩教科書）をみると、正月、彼岸、歳暮などの定期的なもの外、病気の見舞や返礼、花見や行楽への誘いなどの手紙模範文が多く含まれており、当時の社会生活の一端を垣間見る事ができます。

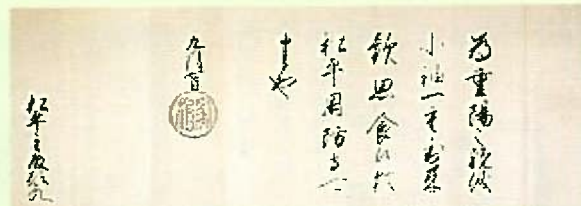
松平主殿頭とのへ

為端午之祝儀  
帷子単物到来  
款思食候 猶  
松平伊豆守可  
申候也  
五月三日 (家齊)



●端午の祝儀に対する礼状 11代将軍徳川家斉

為重陽之祝儀  
小袖一重到来  
款思食候 猶  
松平周防守可  
申候也  
五月七日 (家治)



●重陽の祝儀に対する礼状 10代将軍徳川家治

水野右衛門大夫とのへ

為歳暮之祝儀  
小袖三到来  
款思食候 猶  
稲葉美濃守可  
申候也  
十二月廿七日 (綱吉)



●歳暮の祝儀に対する礼状 5代将軍徳川綱吉

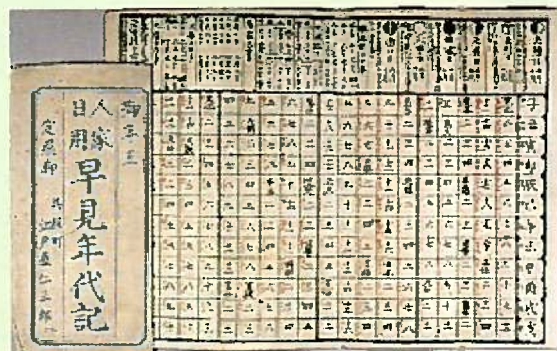
【年賀の話題】

## お年玉

年賀はがきの人気の一つは、お年玉くじが付いている事でしょう。お年玉は、かつては新年を祝ってする贈物全般を指したようですが、近年は正月に子ども達に与える品をいう場合が多いようです。

新年に贈物をする習慣は、既に室町時代末には公家の間に盛んで、種々の品物が使われました。江戸

時代には、商家はお得意へ、医師はその病家へ年玉を贈りました。品物は太刀、馬、衣服、布地を始め、炭、紙、扇子、酒樽、するめ、昆布等の食物まで、また男児には紙鳶、女兒には羽子板等と様々でした。写真は飛脚屋が植った「早見年代記」です。お年玉に対し夏の贈物では扇子等がよく配られたようです。



●「早見年代記」 飛脚屋が年始に配布した御年玉



●「暑中御伺」のうちわ絵



【年賀の話題】

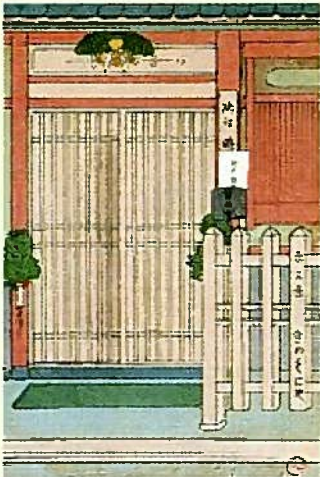
## 回礼(年始まわり)

年の始めに親族、知人宅を回り、年賀の挨拶を交わす「回礼」は古くから行われ、その往来は大正頃までの元旦風景でした。玄関に名刺受けを出したり、礼帳と華祝を置いて訪問者が署名する式の応対の簡素化も図られました。

年賀の礼は、近隣社会、職場社会での心のつながりを強める意味がありますが、社会の発展は、交流する地域や人の範囲を広げ、回礼を困難にしました。しかし、人間関係が希薄になることを避けるため、簡単に気持ちを伝えられる年賀はがきが利用されるようになって、今日の隆盛を迎えたといえるでしょう。



●回礼  
(絵本艶庭訓  
抄出・日本  
歳事史より)



●双六の一場面  
年賀状と年賀の名刺。  
名刺は回礼か郵送に  
より届けられた  
(大正5年)

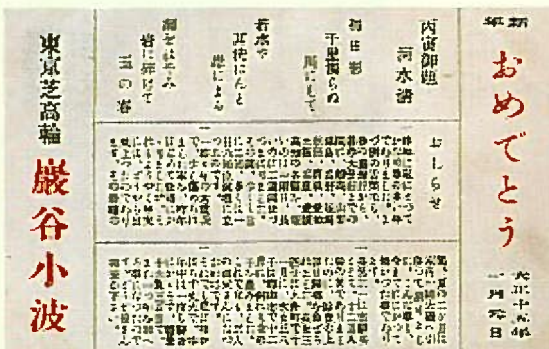
●名刺受けを備えた玄関  
(昭和11年の年賀状版画)



【年賀の話題】

## 著名人の年賀状

手紙には、それぞれの人生から滲み出る、その人ならではの味があるものです。その意味で一流を極めた人達の年賀状は趣深いものがあります。



●巖谷小波(児童文学者)



●中村蘭台(篆刻家)



●坪内逍遙(戯曲家)



# 明治時代初期

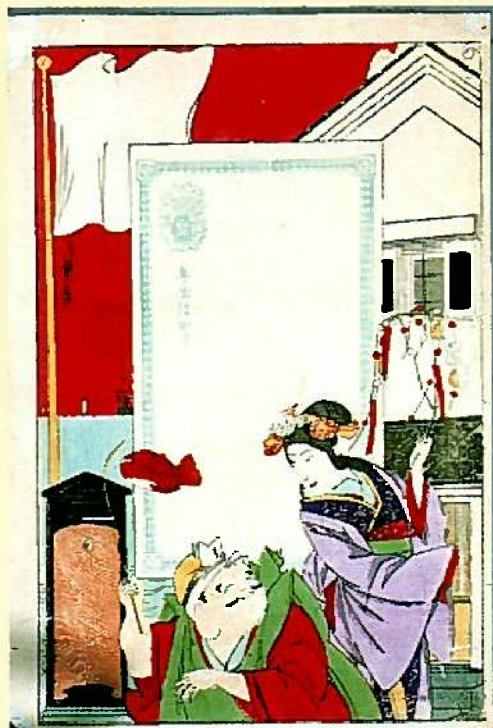
## 【年表2】

明治

- 3. 10. 太政官令により新年賀詞の書式  
(改訂増補「明治事物起源」より)
- 4. 3. 郵便創業
- 6. 1. 太陽暦採用 (旧暦5. 12. 3)
- 6. 12. 郵便葉書発行
- 14. 1. 年賀状処理の為、郵便局は多忙を極める  
(中外郵便週報記事)



●二つ折り葉書を使った年賀状 二つ折り葉書は日本最初の葉書の形式 料金は安く、格好な記帳面積で、発行後間もなく年賀に使われるようになった(明治8年使用例)

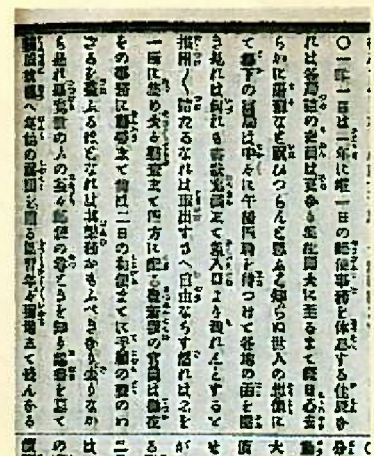


●「年玉はがき」の引札(テラシのこと)1枚小判はがきを模す 葉書と年賀との緊密な関係が推測される



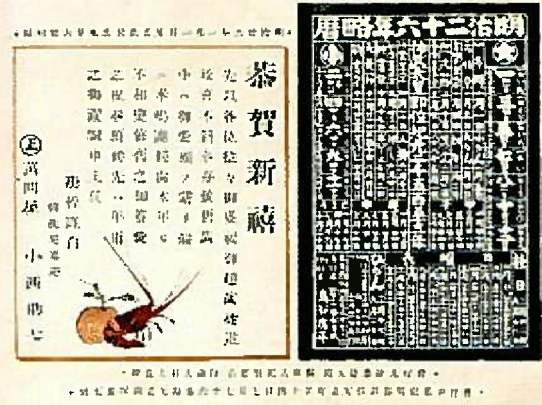
●小型はがき (明治8年発行)、小判はがき (明治8-31年発行)の年賀状

●中外郵便週報記事 (明治14年1月3日付)  
「局の発着課員は、元旦に取り集めた書状を、2日の初便に間に合わせようと、徹夜で配達準備をするが、なお手順が整わないほどである。端書をもって親戚故旧へ年始の祝詞を贈る風習年々いや増して……」と、当時の状況を掲載



中外郵便週報

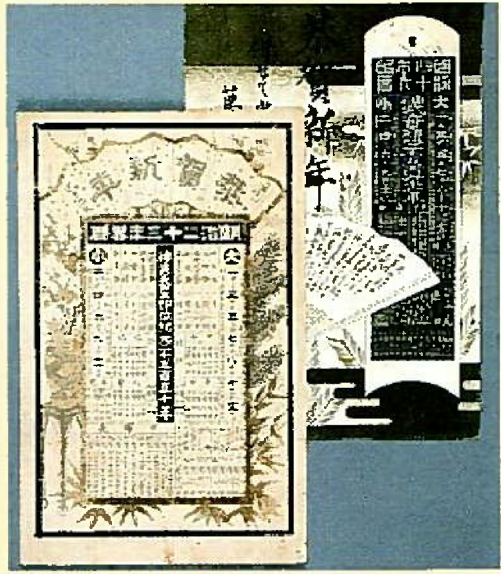




●新聞附録を使った年賀の挨拶 定期刊行物の附録は本紙に添付するもので、明治14年の郵便規則で定められた。(明治26、34年)



●引札による年賀の挨拶 郵便料金表や暦を入れ、美しく印刷して、一年間利用されるよう工夫を凝らした



●曆入りの年賀状 明治16年から略暦の出版が自由になり、年中行事や月の大小を表す暦を刷り込んだ年賀状が盛んになった

【年賀の話題】  
**恭賀新年の源**

明治3年10月23日の太政官令により、新年賀詞の書式が次のように定められました(明治事物起源より)。  
 勅任賀表書式 … 謹奉賀新正  
 奏任賀表書式 … 謹奏賀新正  
 後に盛んとなった賀状の表現「恭賀新年」「謹奉賀新年」には、この影響があったとも考えられます。

【年賀の話題】  
**年始葉書の謎**

明治17年12月2日の時事新報の紙面(新聞集成明治編年史より)には、次の様な記事が載っています。  
 「年始郵便端書 政府が発売  
 大藏省印刷局にては、来る十八年一月より種々の模様を附けて彩色せし年始郵便端書を発行すると云う。」  
 全くの誤報だったのでしょうか。それにしても、年始葉書がこのような話題になるほど年賀への関心が高かったのでしょう。



# 年賀の特別取扱い開始

## 〔年表3〕

明治

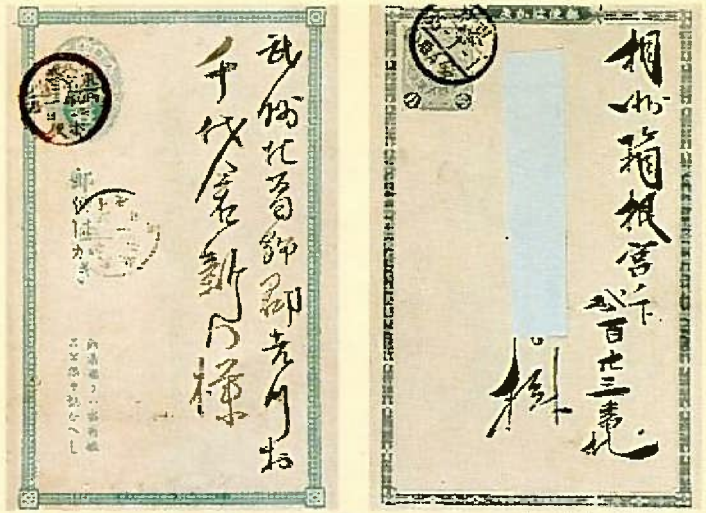
- 23. 1. 年賀繁忙のため、この年からは1月1日から3日の間、集配度を減らした
- 31. 1. 毎年1月1日から5日までに到着する郵便葉書の、到着日附印の持捺を省略
- 32. 12. 年賀郵便物特別取扱い開始(指定局に限る)  
取扱い期間は12月20日～30日
- 33. 10. 私製葉書認可
- 33. 12. 年賀状郵便物特別取扱規程を定める  
取扱期間12月中、把束して記票を付し、局に差出す  
(必要に応じ全国の局で取扱う)
- 38. 1. 年賀葉書 概数1億1千万通(推測)
- 38. 12. 全ての郵便局で取扱う  
20通以上、種類(第何種)を問わず束ねて、年賀郵便と記載した札を付け、局窓口に差し出す
- 39. 12. 年賀特別郵便規則施行 制度確立  
取扱期間12月15日～29日(10通以上)
- 40. 4. 絵はがきの表面下部1/3に通信文の記載が可能となる  
4億通
- 40. 11. 通数制限撤廃、少量は郵便函へ投函も可

大正

- 3. 11. 離島その他交通不便の地は、特別取扱開始を繰り上げる(特に12月5日から)
- 12. 9. 関東大震災
- 12. 11. 関東大震災のため特別取扱い休止

昭和

- 3. 11. 取扱いを、1種2種及び4種の内名刺に制限 取扱期間12月20日～29日  
離島等は12月1日から



●到着日附印の省略 日附印は引受、到着双方の証印を押したが、郵便物の増加に伴い到着印が省略された(明治31年～)



●私製はがきの認可 意匠は豊富になり、年賀状の利用は一般活発になった(明治33年～)



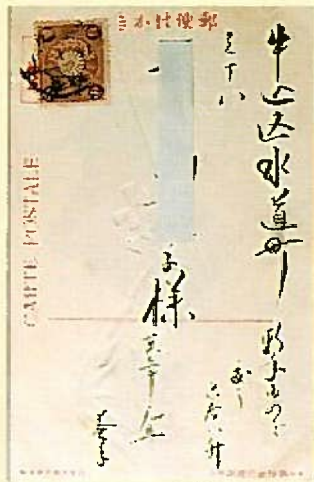
●封筒を使った年賀 封書は年賀の特別取扱いの対象であり、名刺を送るときも利用された





謹賀新年  
 祈高堂之萬福  
 尚乞將來之厚誼  
 明治三十四年一月五日

●表面記載事項 絵はがきの表面下部3分の1に通信文記載を認可 それまたは図柄の中に通信文が記載された (明治40年~)



●特別取扱方法の揭示 通数の制限が撤廃され、少量の投函は可能になる (明治40年)



●明治天皇崩御に伴う周知ポスター 年賀の取扱いは継続された (大正元年)



●諒閣(りょうあん=天子が父母の喪に服す期間) 大正元年には「諒閣中年賀欠礼」の葉書も出された

【年賀の話題】

外国の年賀状と新年用切手

外国はクリスマスカードだろうと思いがちですが、新年の挨拶も交換されています。写真は20世紀初期の華麗な外国製年賀はがきです。また、最近では新年にちなむ切手も各国で出しています。しかし、宗教や暦によって相違があり、春や秋に新年用切手を出す国もあります。



上段 大韓帝国、中華人民共和国、タイ、マカオ、  
 中段 ホンコン、朝鮮民主主義人民共和国、ユーゴスラビア、  
 下段 ソビエト連邦、ブルガリア、ハンガリー



# 年賀切手の発行

【年表4】

昭和

- 10. 12. 第1回年賀用切手発行「崑山の富嶽の図」  
特別取扱用の別意匠の通信日付印使用
- 11. 12. 第2回年賀用切手発行
- 12. 7. 日華事変勃発
- 12. 12. 第3回年賀用切手発行  
日華事変により年賀激減 切手発行はこの年限りとなる
- 13. 4. 新郵便規則制定  
印刷書状及び名刺を除外し、封緘書状及び通常葉書に限定  
離島の取扱いは逓信局長が期日を定める
- 14. 時局緊迫により年賀郵便減少
- 15. 11. 当分の間年賀郵便の特別取扱い停止  
特別日付印の使用中止
- 16. 2,700万通程度に減少
- 23. 12. 年賀切手発行再開（羽根をつく少女）  
年賀郵便特別取扱再開



●年賀切手発行  
年賀の早期差出し勧奨のため発行された 1月1日以前は年費用以外に使えなかった（昭和10年～）



●特別図案の日附印 年費用として使用された（昭和11年用～）

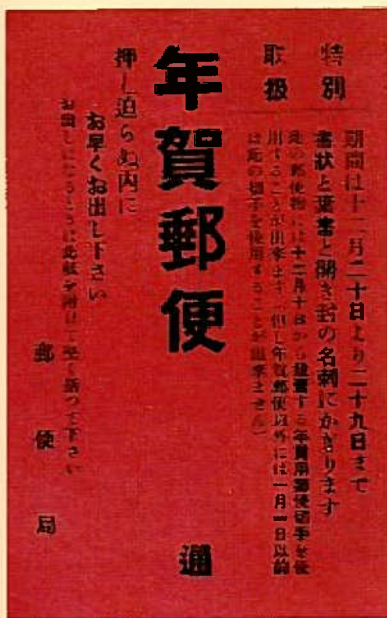
【年賀の話題】

## 年賀状印刷盤

年賀状は、色々と工夫を凝らして作ることに楽しさがあります。写真は昭和9年発行の少年雑誌の付録となった印刷器で、合羽版の技法を使っています。







●附丸 年賀状差出しの時、束の表に付けられた (昭和22年)

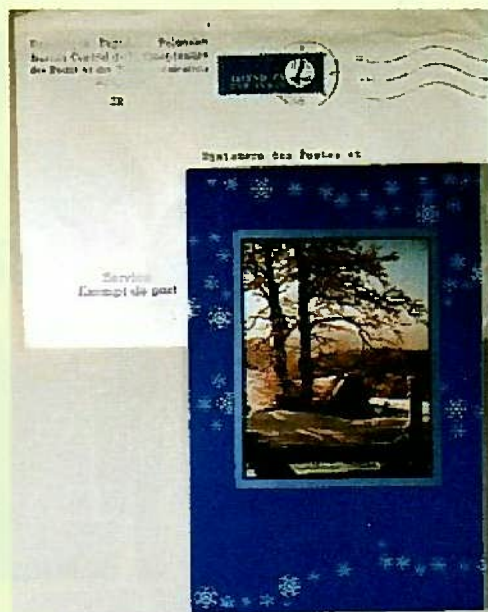


●年賀葉書の特別取扱い再開 昭和23年12月に8年ぶりで開始し、年賀用切手も発行された



【年賀の話題】  
国際年賀状

世界各国の郵政庁は、万国郵便連合の組織を通じて互いに深いつながりがあり、相互に年賀の交換も行っています。写真は日本から各国へ送った明治の年賀状と、近年外国から送られてきたカラフルな年賀状の例です。





## くじ付き葉書の発行

【年表5】

昭和

- 24. 12. お年玉くじ付き郵便葉書発売
- 25. 12. 書状の年賀取扱開始（～36年）
- 27. 11. 低料年賀葉書制度（～41年用）  
寄付金・くじ無し年賀発売（～31年用）
- 30. 12. 沖縄で年賀葉書の発行開始
- 31. 11. 寄付金なしも、くじ付きとなる
- 31. 12. 沖縄で年賀切手の発行開始
- 36. 11. 官製年賀葉書の消印省略  
（印面下方に消印の表示を印刷）
- 41. 7. 葉書の寸法拡大
- 43. 11. 郵便番号枠付となる
- 53. 1. 3、4等賞品は番号を切り取らずに受領可



●お年玉くじ付きの年賀葉書 昭和24年12月に、初めて発行され、「初夢の贈物」と宣伝された

【年賀の話題】

### 寄附金の配分先

昭和24年に発売された寄附金つき年賀葉書の配分金は僅か1億円余で、その寄付を受けた団体も中央共同募金委員会と日本赤十字募金委員会だけでした。

今日では、寄付目的も社会福祉、非常災害救助、特殊疾病の研究、原爆治療、交通事故防止、文化財保護、社会教育、スポーツ振興、地球環境保全等々の事業にまで広げられ、300余団体に、10数億円が配分されます。



●周知 はがき娘と移動郵便車による (昭和24年)

【年賀の話題】

### 年賀葉書の賞品受取人

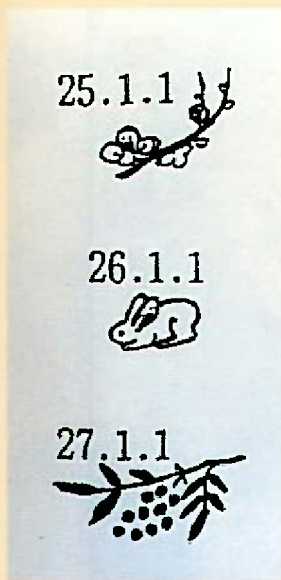
お年玉付き年賀はがきの考案者は、京都の人林正治氏。終戦後の混乱で連絡の途絶えた人の消息が、年賀状により分かればと思ったのが最初の発想でした。

氏の提案を受けた郵務局では、「日本はいま、疲弊して食べるものも食べられない時代。送った相手にクジがあたるなんて、のんびりした状態ではないでしょう。」と懐疑的でした。このため、郵政審議会への諮問は、クジによるお年玉の贈与先を、一案では受取人に、二案では受取人・購入者双方にと、併記しました。購入者に賞品を贈る場合は、はがき数に応じたクジ券の交付を考えていました。



●年賀はがき抽選会 大阪中央公会堂 (昭和26年)





●年賀図案入り日附印  
昭和25年春から復活した  
(～31年用)



●低料年賀葉書の制度による葉書  
お年玉はなく(28～31年用)、年賀  
用以外は1円を貼りたして使用した



●お年玉付 寄付金の有無に関係なく  
全てお年玉付となった(昭和32年用～)



●沖縄葉書 沖縄では30  
年に年賀葉書、31年に年  
賀切手の発行が始まる。  
くじは付いていない



●年賀用印 昭和33年用からは年賀の文字が入り、38年  
には別納の特別表示が定められた



●消印表示 消印にかわる表示を印刷  
して消印を省略(昭和37年用～)



●郵便番号 制度の開始に伴い、年賀葉書にも番号枠  
が付けられた(昭和43年～)



# 絵入り年賀葉書の発行

## 【年表6】

昭和

- 57.11. 寄附金付きは裏面絵入りとなる  
寄附金3円となる
  - 58. 1. 全ての等で番号を切り取らずに受領可
  - 58.11. 絵入り葉書地方版発行
  - 59.10. 電子郵便実験サービス全国で開始
  - 60.12. 第1種郵便物の年賀郵便特別取扱
  - 62.11. 四面連刷のお年玉付き郵便葉書を発行
- 平成
- 1.12. 世界初のくじ付切手を年賀用として発行
  - 2.11. 目の不自由な方用はがき発行(くぼみ付)
  - 7.11. 版画用お年玉付き郵便葉書を発行



●絵入り年賀 一般の需要に答えるため、寄附金つき年賀はがきには新年にふさわしい絵や年賀の言葉を印刷(昭和58年用～)

## 【年賀の話題】

### お年玉賞品の変遷

お年玉付き年賀はがきの最初の景品は、特等がミシンで18台。当時、ミシンは大半が月賦販売という高嶺の花でした。1等は純毛洋服地、2等は学童用グローブ、3等は学童用こうもり傘といった日用品でしたが、物の無い時代で、人気は上々でした。

その後の最上位の賞品は次のものでした。

- |        |                         |      |  |
|--------|-------------------------|------|--|
| 26年    | ダンス又は写真機                | 61年  | ビデオテープレコーダー                              |
| 27年    | 家具一式又はミシン               | 62年  | ハイファイビデオテープレコーダー                         |
| 28～30年 | ミシン                     | 63年  | カメラ一体型ビデオ                                |
| 31～32年 | 電気洗濯機                   | 64年  | 海外旅行券                                    |
| 33～34年 | ダンス                     | 2年   | 海外旅行券又は衛星放送受信回路内蔵型テレビ                    |
| 35年    | フォームラバーマットレス            | 3～4年 | 旅行券又は衛星放送受信回路内蔵型テレビ                      |
| 36年    | ステレオ装置                  | 5年   | 旅行券、衛星放送受信回路内蔵型テレビ、羽毛掛ふとん                |
| 37年    | 35ミリ判カメラ                | 6年   | 腕時計、衛星放送受信回路内蔵型テレビ、カメラ一体型ビデオ             |
| 38年    | 8ミリ撮影機                  | 7年   | 衛星放送受信回路内蔵型テレビ、液晶モニター付ビデオカメラ、日本語ワードプロセッサ |
| 39年    | スプリングマットレス              | 8年   | ワイドテレビ、液晶モニター付ビデオカメラ、電動駆動補助力付自転車         |
| 40～42年 | ポータブルテレビ                |      |  |
| 43年    | トランジスターテレビ              |      |  |
| 44年    | 8ミリ撮写機映写機セット            |      |  |
| 45年    | オールチャンネルトランジスターテレビ      |      |  |
| 46年    | 8ミリ撮写機映写機セット            |      |  |
| 47年    | カセットテープレコーダー            |      |  |
| 48年    | 折りたたみ式自転車<br>又は電子式卓上計算機 |      |  |
| 49年    | ラジオ付カセットテープレコーダー        |      |  |
| 50～52年 | 折りたたみ式自転車               |      |  |
| 53年    | ラジオ付カセットテープレコーダー        |      |  |
| 54年    | ラジオ付テレビ                 |      |  |
| 55年    | コンパクトカメラ                |      |  |
| 56年    | 折りたたみ式自転車               |      |  |
| 57年    | ステレオラジオカセットテープレコーダー     |      |  |
| 58年    | カラーテレビ                  |      |  |
| 59～60年 | 電子レンジ                   |      |  |

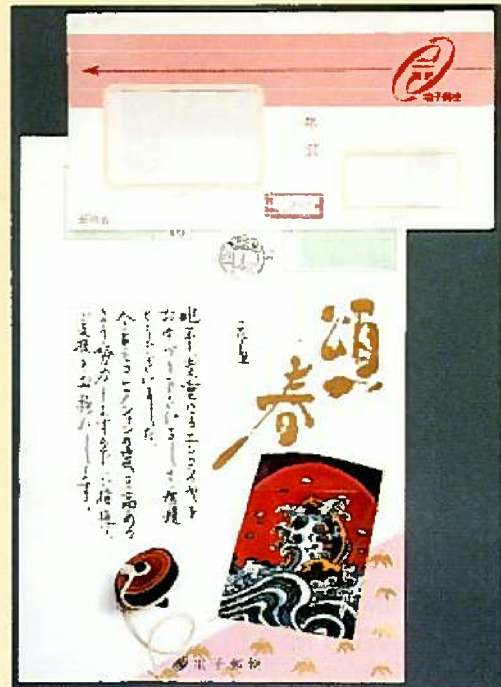


●絵入り地方版 地方色豊かなものなど、図柄を多様化し、年賀状にバラエティを持たせるため、発売地域が特定される「地方版」を発行(昭和59年用～)





●書状の年賀 従来の葉書や点字の年賀状のほか、定形郵便物、郵便書簡が特別取扱いの対象に加えられた（昭和61年用～）

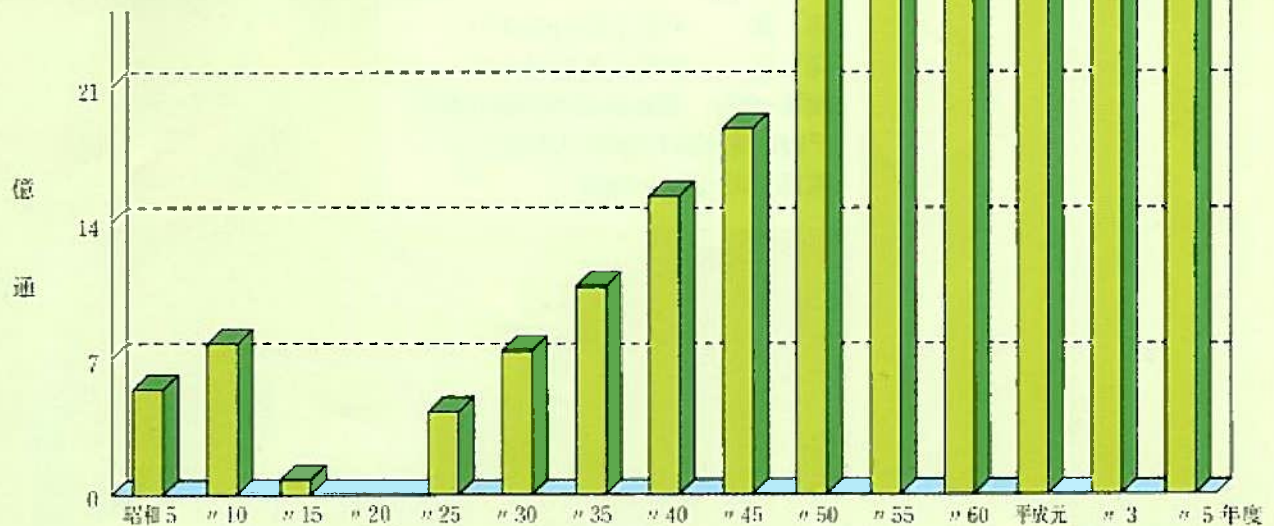


●電子郵便（レタックス） 全局で取扱いを開始。配達日を指定できるので、ユニークな年賀の挨拶として利用されている（昭和59年～）



●お年玉くじ付年賀切手 封書や私製はがきによる年賀状利用者のため、世界初のくじ付き切手を発行（平成2年用～）

【年賀の話題】  
年賀郵便取扱い量の変遷





印刷 平成7年11月1日  
発行 平成7年11月1日  
編集・発行 郵政研究所附属資料館  
〒100 東京都千代田区大手町2-3-1  
電話 03-3244-6821